

(様式2)

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
18	川崎市立玉川中学校	溝部 晃

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
1 自他共に尊重し、共に生きる力の育成 2 豊かな心・たくましく生きる力の育成 3 基礎学力の定着と自ら学ぶ力の育成	1 確かな学力 2 豊かな心・健やかな体 3 生徒の発達の支援 4 開かれた学校	○だれもが楽しい・わかる授業の研究 ○共生＊共育プログラムの効果的实施 ○健康・安全教育の実施 ○キャリア在り方生き方教育の推進 ○各種通信の定期的発行 ○学校教育推進会議と学校関係者評価委員会の有効活用 ○地域貢献活動の推進 ○家庭学習の習慣化 ○道徳教育の充実 ○一人ひとりの発達を支援 ○安心・安全な教育環境の整備 ○学校HPの更新

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
1 確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学び合いの研究を通して、だれもが楽しい・わかる授業を探求する。</li> <li>・全員が授業提案を行い、意見交換をする。</li> <li>・研究日を設定し、研修時間を確保する。</li> <li>・生徒の学習習慣が確立するよう、家庭との連携を図りながら、各学年の発達段階に応じた取組を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画に沿って、様々な教科で複数回授業公開を行い、授業研究、意見交換、講師による講話等の職員研修の場を設けることができた。</li> <li>・机の配置や課題の工夫など、各教員が「学び合い」を取り入れた授業展開をすることができた。</li> <li>・定期試験前に学習計画表を配布し、計画、実践、記録に取り組みせ、家庭学習の重要性に気付かせるようにした。まだ習慣化には至らなかったため、引き続き、生徒、家庭双方に家庭学習における習慣化の重要性を伝えていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内自主研修として、玉川中学校に合ったスタイルの研究を進め、今後も「生徒の居場所づくり」を追究していく。</li> <li>・研究日や授業公開の在り方を工夫し、全教職員が基礎学力の定着と自ら学ぶ力の育成を目指し、授業改善に努める。</li> <li>・授業改善や評価の在り方について講師を招くなど学校全体で考え、職員研修の場を設定する。</li> <li>・家庭学習の習慣化を推進するため、生徒への啓発及び保護者への呼びかけ等も工夫する。</li> </ul>
2 豊かな心 健やかな体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分づくり、友だちづくり、仲間づくりのエクササイズを通して自尊感情を高め、他者理解を深め、学び合いの基盤をつくる。</li> <li>・考える道徳、議論する道徳と評価についての理解を深める。</li> <li>・生涯を通じて、健康・安全な生活を送るための教育を計画的に行う。</li> <li>・感染症予防に向けた活動を継続的にを行い予防教育を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共生教育プログラムを利用して、計画的にエクササイズと効果測定を行い、学級・学年の状態把握と居場所の確保に努めた。</li> <li>・道徳では、発問の検討も含め、事前の準備がしっかりできている。評価は、態度や表情の微妙な変化から行動の背景にある心の動きを捉えるなど、生徒の内面の理解に努める必要がある。</li> <li>・各学年の実態に応じた健康教育を年間計画に位置付けて、計画的に実施した。</li> <li>・メンタルヘルスや性に関する問題など、現代的健康課題が増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共生教育プログラムの意義をもう一度全職員で確認し、その意義が達成されるような活動の工夫を行う。</li> <li>・道徳心の育成には多くの場面や要因がかかわりあっているため、広い視野から総合的に理解するように努める。そのためには、多くの教師やそれぞれの家庭の協力を得て資料を収集していく。</li> <li>・今後も健康・安全な生活を送るための健康教育を、計画的・継続的に実施していく。</li> <li>・教育活動ガイドラインに沿って、必要な予防教育の徹底に努める。</li> </ul>

3	生徒の 発達の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援教育コーディネーターを各学年に配置し、生徒にかかわる問題の早期の発見と解決をめざす。</li> <li>・校内支援体制を構築する。</li> <li>・自らの生き方を考え、主体的に進路選択できる力を育成する。</li> <li>・清潔な教育環境を整えるために、清掃の時間を大事にし、自ら気づき、動ける生徒を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や保護者の抱える問題にすぐに対応していくため、情報の共有を迅速に行うようなシステムの構築を図った。その上で、各学年の支援教育CO.の役割を明確化し、校内支援教育推進委員会等の中で、課題解決のための話し合いの場を持てるようにした。</li> <li>・学習支援、登校支援の在り方について話し合いを重ね、学校職員の協力を得て運営することができた。特に学習支援においては、学習のサポートだけではなく、生徒が進路選択をし、それに向かって努力するのを支えることもできた。</li> <li>・生徒は、限られた時間内で身の周りの環境を整えようとする姿勢をもち活動していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援、登校支援の状況をデータ化し、教職員がいつでも確認できるようにしていく。また、生徒が抱える課題について情報共有し、より多くの職員が支援を行うことができるようにする。</li> <li>・学習支援や登校支援で行っていることについて、保護者や本人、教科担任へのフィードバックを行う。</li> <li>・通常クラスの中でも、生徒が集中できるような教室環境を整えられるようにする。</li> <li>・通級指導教室やカウンセラー、養護教諭等との連携をより深め、多角的な支援につながるようになっていく。</li> </ul>
4	開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校便り、学年便り、保健室便り、相談室便りを定期的に発行し、保護者に情報提供を行う。</li> <li>・新しい情報を保護者や地域等に発信できるようにする。</li> <li>・より良い玉川中学校をつくるために、各委員の意見を参考にし、次年度に生かすための会議を行う。</li> <li>・地域を愛する心情を育み、地域貢献活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校通信、学年通信、学級通信、保健便り、相談室便りを各担当が定期的に発行し、様々な情報を保護者に提供することができた。ホームページの更新も定期的に行うことができた。</li> <li>・学校教育推進会議を7月と2月に行った。地域の方々から、3年生が行った平和教育や、本校オリジナルキャラクター「GYO松」について、良い取り組みであるとお褒めいただいた。その他にも貴重なご意見をいただき、学校運営の参考にすることができた。</li> <li>・生徒が大きな声であいさつをしてくれるのでうれしいといったご意見も地域の方々からいただいた。地域に見守られながら生活している一人である、という意識をより多くの生徒に持たせられるようにしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種便りの発行や学校ホームページの更新は今度も定期的に行い、学校の様子がタイムリーに分かるよう努めていきたい。</li> <li>・来年度からコミュニティースクールを立ち上げることで、より地域との連携を深めていきたい。</li> <li>・生徒会本部や学年委員会が中心となって「あいさつ運動」を行っている。この活動を通して、生徒たちにあいさつの大切さに気づかせ、あいさつも地域貢献の一つであるという意識をもたせたい。</li> <li>・今後もますます地域の行事が復活することが予想される。地域の方々を確認しながら、交流が深められるように検討中である。</li> </ul>
5	キャリア在り方 生き方教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア在り方生き方教育についての理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事でPDCAサイクルを取り入れた振り返り用紙を各学年利用した。それにより、生徒自身が目指す姿を自ら考え、自身の成長を感じることに繋がった。</li> <li>・和やかで穏やかな人間関係が構築され、社会生活につながる能力(『他者と関わる力』『他者に考えを伝える力』)を高めることができた。</li> <li>・キャリア在り方生き方教育の目標と『目指す子どもの像』のつながりは、計画的な取組が必要だと感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PDCAサイクルは今後も継続的に実施する。生徒のリサーチも含め、それらを活用しながら玉川中学校が目指す生徒像に近づけていきたい。</li> <li>・キャリア在り方生き方教育の推進のためにも、その意義や実践方法を職員間で共有し、計画的に『キャリアパスポート』を活用し、小学校、中学校、高校とつながりをもってキャリア教育に取り組んでいきたい。</li> </ul>

学校関係者の評価	今年度のまとめ・次年度へ向けての取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民として、落ち着いた学校という意識でいつも見ている。今後も、継続してほしい。</li> <li>○最近、登下校する生徒が、顔見知りでもないのに、おそらく学校近くの地域にいますというので、挨拶してくれる。とてもうれしく感じている。</li> <li>○マスコットキャラクターや地域向けの行事、活動などもっとPRしてもらいたいし、協力もしていきたい。</li> <li>○広島への修学旅行は、大変だと思うが、数年に一度でもいいから、継続してもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶運動など生徒会が中心となった啓蒙活動が、定着化・継続化してきたと感じる場面が増えてきた。その意義を伝えていくことも含めて、継続した取組を行っていきたい。</li> <li>・「わかりやすい授業」については、課題を多く感じる結果となっている。GIGA端末の利用方法、評価との一体化を含めて、個々はもちろん、学校全体として研修を重ね、生徒に寄り添った指導ができるよう努めていきたい。</li> <li>・生徒の有用感・自己肯定感の育成について、様々な面から見直していく必要がある。形式的な指導・活動ではなく、生徒が主体的・自発的に活動や課題に取り組む仕掛けや働きかけを、長期的な視点をもって実践していくように計画していく。</li> <li>・地域行事への参加や、地域への働きかけを生徒主体の活動として捉えていけるよう、スモールステップを設定して実行していく。学校が生徒・地域と一緒に考え、生活していく姿を具体的に見せていくという意識を、職員一人ひとりが持たなければいけない。</li> </ul>